

# 因縁

雨が降る地域と降らない地域がはっきりしています。こちら

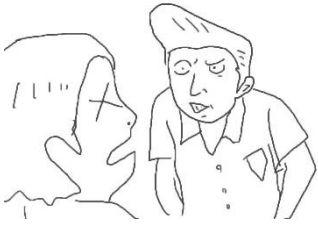


は、あまりにも降らず、水やりが間に合っていない。

植物には水が必要だと痛感した次第です。

今回ご紹介の「因縁」。世間では、因縁をつけるという使われ方をしますが、この場合は、無理やり原因を作り、言いがかりをつけるという意味で使われています。つけられた相手はたまったものではありませんが、仏教では少し意味が違います。

因縁とは、原因を指します。物事には原因がある。今の現状があるのは、原因があり、自分では操作できない原因も含まれています。因と縁を細かく分類しますと、「因」とは、植物で例えるならば、種です。それだけでは育ちません。そこで「縁」という、水や土、日光などが加わり、花という結果が生じるのです。因は変える



ことは出来ません。しかし、縁次第で結果を変えることが出来ます。どうぞ縁に出遇う機会を作りませんか？

「記憶にございません」  
実生活で使ったら  
記憶失くす程  
怒られた 尹経弘

## こんなところに 仏教用語

身近な仏教用語を紹介しています。

# 有為

有為・・・生滅変化すること。世の一切の現象のこと。反対に、生滅変化しないものを



無為という。真理・悟りなどは無為にあたる。

えっ？有為って普段聞いたことがないと思われたでしょうか。いやいや、どこかで聞いたことがあります。例えば、いろは歌

色はにほへど 散りぬるを

我が世たれぞ 常ならむ

有為の奥山 今日越えて

浅き夢見じ 酔ひもせず

「有為」がでてきます。生まれては死に行くこの世の在り様のことを表しています。頭ではわかつてはいることだけでも、いざとなると慌てふためくのが私です。

太平記の中で、足利義詮將軍の執事である細川清氏が謀反の疑いをかけられ、奉公人が離れ、にぎやかだった館が静かなる場面の所で、



有為転変の世の習い、今に始め事なれ共、不思議なりし事ども也とでてきます。